



2期生 (経営学部/経営学科)

富岡 義彰

根は真面目な人間



01 生まれと育ち

おとなしい子供でした。小学校の頃は、夏休みの宿題を早めに終わらせるタイプで「宿題が終わらない！」と焦って取り組むことはありませんでした。やらなくてはいいけないことが溜まっている状態が嫌だったからです。クラブ活動で言えば、4年生のときにバソコンクラブ、5、6年生のときに理科クラブといった主に室内で活動するクラブに所属していました。休み時間に外で鬼ごっこやサッカーをして遊ぶこともありましたが、どちらかといえば物静かな方でした。

中学校になると、父親から運動部に入れと言われたこともあり、プレーしている先輩の姿がかっこいいと思えたソフトテニス部に入学しました。そのときの顧問がとても厳しい人で、練習中に突然「今からランニングしよか、チームに分かれて校内1週全力疾走リレーな。私が終わるいうまで走るんやで。順位でその後の筋力回数増やすからな」といった具合でした。走ることに大嫌いで、顧問の理不尽さに戸惑いを覚えながらも、顧問の「継続は力なり」という言葉を信じて3年間汗を流し続けました。



高校は、情報

システム科というパソコンの授業を週5時間行う学科なので、メガネをかけた落着きのある人が半数を占めるクラスでした。他学科の人がワイワイガヤガヤしているところを見て「何がそんなにおもしろいねん」とバカにするも、実はすごく羨ましいと思っていました。そんな私は担任の勧めで資格取得に没頭し、3年間で合計6つの資格で1級を取得することができました。

02 大学生になってからのこと

1年次は遊び、2年次から変わる
2014年4月、私は晴れて大学生となりました。両親から経済的な理由で学費を払えないと言われていたのですが、大学時代でしかできない経験をしたと強く思い、全て自分で支払うことを決めて進学しました。入学する少し前には髪色を金色にし、耳にはピアスを付けるための穴を開け「こんなことをしても誰にも怒られないんだ」と思っていました。高校までは遊びより勉強に励むといった学生生活を送っていたので、大学からは何としても楽しんでやるうと意気込んでいた気持ちが表れたということです。

その強い意気込みを持っていたことから、私は高校時代までの私を否定するかのようになら進んで行動しました。特に、大学1年生の頃には、新入生対象の合宿プログラム、京都バスツアー、四大学学生交流プログラム、ボランティア、模擬店出店など、

様々な活動に参加しました。そのとき私は「大学生って本当に自由なんだなあ。でも、自己管理ができないと本当にクズになって終わってしまうな…」と、遊びすぎることに不安の気持ちを抱いていました。



そして、大学2年生になる頃、私はむすびわざコーポプログラムと出会いました。入ったきっかけは、説明会でお金と単位が貰える長期有給インターンシップに参加できるということに下心をくすぐられたからです。説明会では、むすびわざの多忙さについて紹介されており、一度は入ることをためらいました。しかし、1年次に遊びすぎたことを反省し、ここで本気を出して何かに取り組んでおかないと後悔すると思い、未知の世界に飛び込んでいくようなワクワク感と共に入ることを決意しました。それからというもの、遊び中心の大学生活を始め、自己成長のためにむすびわざ中心の大学生生活を送るようになりました。

始めることができました。インターンシップが始まって1ヶ月が経つ頃、私は多くの業務から気づきや学びを得たいと思い、社員の方に新しい業務を覚えたいと自ら依頼したことがありました。しかし、日々の忙しい業務の中に教えていただく時間を組み込むので、ただやりたいと言うだけではなかなか組み込んでもらえませんでしたが、それから私は不満を抱きつつ、なぜ新しい業務を覚えたいのか、いつまでに教えていただきたいというのを粘り強く伝え続けました。すると、熱意が伝わったのか、教えていただく時間を組み込んでいただくことができました。

企業が理念に基づいて売上を上げるときも、同じことが大切になると思っています。お客様に満足して商品をご購入していただくためには、商品のデザインや機能、質や価格などに共感していただくことが必要です。こういったことから、仕事とは、人の心を動かすことだと感じることができました。

03 長期有給インターンシップ
仕事とは、人の心を動かすこと
私は株式会社ファーストリテイリングのユニクロで、店舗スタッフとして4ヶ月間のインターンシップに参加させていただきました。私はこのインターンシップを通して、仕事とは、人の心を動かすことだと感

04 これからのこと

私が社会に出て会社で働き始めてから、家にお金を入れることや両親をどこかに連れていくことができてきました。



05 大事にしたいこと

私はずっと前から「当たり前前のごとだと思わない」「ことを大事にしたい」と思っています。当たり前前のごとが多いと、感謝することが少なくなり、それに比べて例して他者への配慮が少なくなるからです。特に私は、両親との関わりで当たり前前のごとが多いと感じます。例えば、夜遅くに帰宅してもご飯を用意されていたり、お風呂が沸かされていたりといったことがありません。これからは、感謝の気持ちを言葉で表すことから始めていくつもりです。

19歳 東田先生と出会う
自分の生き方、働き方を考えるきっかけとなり、その後の人生を大きく左右する。

17歳 大学進学を決心する
両親から学費を出せないと聞かれるも、自分で支払うことを約束し、進学を決心する。

12歳 中学校のソフトテニス部に入部する
顧問の厳しさにうろたえるも、3年間継続する大切さを学ぶ。

プロフィール
1995年10月、滋賀県大津市生まれ。家には両親、2つ上の姉、祖母と一緒に住んでおり、いわゆる二世帯住宅という環境の中で私は育った。幼稚園、小学校、中学校、高校と地元で通い、その後は京都の大学に進学した。中学校、高校の頃は始業の30分前には必ず学校に到着していたため、無遅刻無欠席で皆勤賞を受賞した。大学では今までの自分を変えたいと思い、様々なイベントやサークルに参加した。その中の1つに、むすびわざコーポプログラムがあり、私を大きく変えるきっかけとなった。

関本龍翼 (3期生)
富岡先輩は、私にとって話しかけやすい先輩です。「親近感の湧く笑顔」と「優しさを含んだ受け答え」が、先輩である私に安心感を与えてくれるので、とても頼りになる先輩だと思っています。

先輩・後輩からのメッセージ
有瀧恵理 (1期生)
取り組み方の姿勢が真面目な後輩です。自分をしっかりと理解していて、今何をしなければいけないかを冷静に判断し、優先順位を付けて行動することができる性格の持ち主だと思います。